

1. 被爆樹木調査票

No.	調査日		天候		調査者	
樹 種 名				学 名		
所 在 地				所在地 (被爆時)		
場 所 の 特 徴				管理者		
対 象 木 の 類 型 調 査	1.単幹 ・移植 (有り、 無し) ・地上部被害痕跡 (有り、 無し) 2.株立ち ・移植 (有り、 無し) ・地上部被害痕跡 (有り、 無し)					
形 状 寸 法 等	樹 高	m			主幹胸高(1.2m)周囲	cm
	株 立 樹 木 の 株 数 お よ び 胸 高 周 囲	周15cm以上の 本数			本 樹幹胸高断面積合計	cm ²
		周15cm以上の 各々の幹周	cm	cm	cm	cm
	枝 下 高	m		根元高20cmの周囲		cm
	枝 張 り	爆心地側(南) m・反対側(北) m・右側(東) m・左側(西) m				
	樹 齢	年		その根拠		
生 育 環 境 の 概 況	立 地 場 所	1.公園・緑地 2.学校敷地 3.公共施設 4.社寺敷地 5.建物周辺 6.その他(河川堤防)				
	周 囲 の 状 況	1.樹林の中 2.低木、芝生 3.耕地 4.建物の間 5.道路 6.河川 7.広場、運動場 8.その他()				
	日 照 条 件	1.良 2.普通 3.やや不良 4.不良				
	日 照 不 足 の 原 因					
	根 元 及 び 周 囲 の 植 生	草本	1.密生 2.疎 3.なし			
		木本	1.密生 2.疎 3.なし			
	周 辺 樹 木 と の 関 係	1.影響なし 2.わずかに影響を受けている 3.影響を受けている 4.かなり影響を受けている 5.深刻な影響を受けている				
	根 元 近 く の 構 造 物					
人の踏圧						
管理状況	1.柵設置(有・無) 2.支柱(有・無) 3.剪定(強・弱・無) 4.施肥(有・無) 5.薬剤散布(有・無)、6.定期的な草取り、掃除(有・無) 7.その他()					
根 元 の 状 態	1.裸地 2.草地・地被類 3.灌木・低木 4.舗装 a.砂利・碎石 b.アスファルト・コンクリート c.その他() 5.覆土 (有 無し) 有の場合、厚さ() 6.その他()					
樹 木 の 状 態	1.枝枯 a.大枝(多・中・少・無) b.中枝(多・中・少・無) c.小枝(多・中・少・無) 2.空洞(有・無)、有の場合 開口(有・無)、位置(上・中・下) 3.剪定、切断痕 大きさ()、量() 4.主幹の傾き 角度()、方向() 5.その他()					
過去の治療歴と内容						
視 認 性	1.遠方からも目立つ 2.近くに行けば見える 3.直前まで見えない 4.敷地内に入ると良く見える 5.敷地内に入っても良く見えない、その理由()					
特 記 事 項						

2. 外観調査票(危険度診断)

No.	樹木番号	樹種名
外 観 調 査		
活力	樹勢 (枝の伸長量、梢端の枯損、枝端の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等)	☐ a ☐ b ☐ c ☐ d ☐ e
	樹形 (主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び枝の密度と配置等)	☐ a ☐ b ☐ c ☐ d ☐ e
大枝の付根 骨格となる大枝	被害の有無	☐ なし(A) ☐ あり
	被害の種類	☐ 樹皮枯死欠損 ☐ 空洞 ☐ キノコ ☐ 亀裂 ☐ 癌腫 ☐ 枯枝
	被害の程度	☐ 小さく概ね問題ない(B) ☐ 中 ☐ 大
	中程度以上の被害のある大枝の数	☐ 1/2未満(C) ☐ 1/2以上(D)
	剪定など処置の必要性	☐ 不要 ☐ 必要 (処置内容: ☐ 切除 ☐ その他)
	処置の必要大枝の数	☐ 1/3未満(C) ☐ 1/3以上(D) ☐ 殆ど切除を要する(切除後樹形崩壊(E))
幹	樹皮枯死欠損 ☐ なし ☐ あり	最大被害部の種類と形状 被害の種類 ☐ 樹皮枯死 ☐ 樹皮欠損 ☐ 空洞 腐朽の有無 ☐ なし ☐ あり 縦 横 周囲長 深さ 幹直径 被害の形状 80cm × 30cm () × / (同一断面に複数ある場合は全て記入) 90cm × 10cm () × / × () × / 周囲長比率 ☐ 1/5未満 ☐ 1/4以上 ☐ 1/3以上 ☐ 1/2以上 ☐ 2/3以上 被害部の傾向 ☐ 回復 ☐ 悪化
	空洞 ☐ なし ☐ あり	
	キノコ ☐ なし ☐ あり	
	☐ ベッコウタケ(D) ☐ コフキタケ(D)	
	☐ その他()	
	木槌打診による空洞音 ☐ なし ☐ 小(C) ☐ 大(D)	
	樹幹傾斜 ☐ なし ☐ 小 ☐ 大	
	☐ 要支柱設置(D) ☐ 要植替(E)	
	病害 ☐ なし ☐ 小または少(B) ☐ 大または多い(C)	
	種類または特徴()	
精密診断の必要性	☐ 必要 理由: 診断面の高さ m 内部空洞の確認	
幹の分岐部	被害の有無	☐ なし(A) ☐ あり
	被害の種類	☐ 樹皮の枯死 ☐ 樹皮欠損 ☐ 空洞 ☐ キノコ ☐ 亀裂 ☐ 枯れ
	被害の程度	☐ 小さく概ね問題ない(B) ☐ 中(C) ☐ 大
	剪定など処置の必要性	☐ 不要 ☐ 必要(処理内容: ☐ 切除 ☐ その他)
	処置の必要大枝の数	☐ 1本以上(D) ☐ 切除が必要で、切除後樹形崩壊(E)
根元	樹皮枯死欠損 ☐ なし ☐ あり	最大被害部の種類と形状 被害の種類 ☐ 樹皮枯死 ☐ 樹皮欠損 ☐ 空洞 腐朽の有無 ☐ なし ☐ あり 縦 横 周囲長 深さ 幹直径 被害の形状 × () × / (同一断面に複数ある場合は全て記入) × () × / × () × / 周囲長比率 ☐ 1/5未満 ☐ 1/4以上 ☐ 1/3以上 ☐ 1/2以上 ☐ 2/3以上 被害部の傾向 ☐ 回復 ☐ 悪化
	空洞 ☐ なし ☐ あり	
	キノコ ☐ なし ☐ あり	
	☐ ベッコウタケ(D) ☐ コフキタケ(D) ☐ 菌糸塊(D)	
	☐ その他()	
	揺らぎ ☐ なし ☐ 小(C) ☐ 大	
	☐ 要支柱設置(D) ☐ 要植替(E)	
	鋼棒貫入異常	
	☐ なし ☐ 芯未達(C) ☐ 芯達(D)	
	病害 ☐ なし ☐ 小または少(B) ☐ 大または多い(C)	
種類または特徴()		
ルートカラーが地際に見えるか ☐ みえる(A) ☐ 見えないが生育に影響なし(A) ☐ ない、生育に影響あり(C)		
露出根の被害	☐ なし(A) ☐ あるが概ね問題なし(B) ☐ 被害がある(C) ☐ 被害が大きい・多い(D)	
被害の内容:		
特記事項		

3. 倒木、枝折れ等危険度判定票

項目 \ 段階	安 全 (0)	可能性があり (1)	可能性が高い (2)	明らかに危険 (3)
通行者・建物等との位置関係				
根 返 り				
幹 折 れ				
大 枝 折 れ				
中 小 枝 落 下				
幹 の 傾 斜 の 増 大 (主 幹 の 傾 斜 度)	(°)	(°)	(°)	(°)
その他()				

診断方法 (該当するものに○をつける)	目視	木槌等による打診	鋼棒	備考

4. 各種被害調査票

部 位		葉	枝	幹・大枝	根元
病 害	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	種類				
虫 害	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	種類				

部 位		幹辺材腐朽・胴枯れ	幹心材腐朽	根株腐朽
木 材 腐 朽	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	病状 種類			

気 象 害	程度	0・1・2・3・4	土 壌 障 害	程度	0・1・2・3・4
	病状 種類			病状 種類	
大気汚染害	程度	0・1・2・3・4	その他の害	程度	0・1・2・3・4
	病状 種類			病状 種類	

被害程度の区分	なし：0 軽い：1 中程度：2 著しい：3 激害：4
---------	--

注：気象害がある場合は、詳しい気象データを添付する。

5. 被害・病徴部位等の細部写真

6. 地上部の衰退度判定票

評価項目	評価基準					評点
	0	1	2	3	4	
樹勢	旺盛な生育状態を示し被害が全くみられない	幾分影響を受けているが、あまりめだたない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊	
枝伸張の量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり細い	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある	下からの萌芽枝のみわずかに成長	
梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端・主枝がない	
下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない	
大枝・幹の欠損	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分が欠けている	
枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスがとれている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少なく著しく疎	ほとんど枝葉がない	
葉（芽）の大きさ	葉（芽）がすべて十分な大きさ	所々に小さい葉（芽）がある	全体にやや小さい	全体に著しく小さい	わずかな葉（芽）しかなく、それも小さい	
葉色	全体に濃い緑色を保っている	やや薄い緑色を保っている	黄色、赤褐色の葉が目立つ	大部分が薄い緑色	薄い緑色と黄色、赤褐色のみ	
樹皮の傷（剥皮・壊死）	傷などほとんどなし	穿孔・傷が少しあるが、あまり目立たない	古傷が残る	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある	
樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発である	大部分は新鮮だが所々不活発な部分がある	全体に樹皮に活力がない	著しく活力が無く衰弱気味である	樹皮の大部分が壊死	
胴吹きひこばえ	枝葉量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹きあるいはひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえも少ない	
衰退度＝各項目の評価値の合計÷評価項目数（評点を自動計算）						

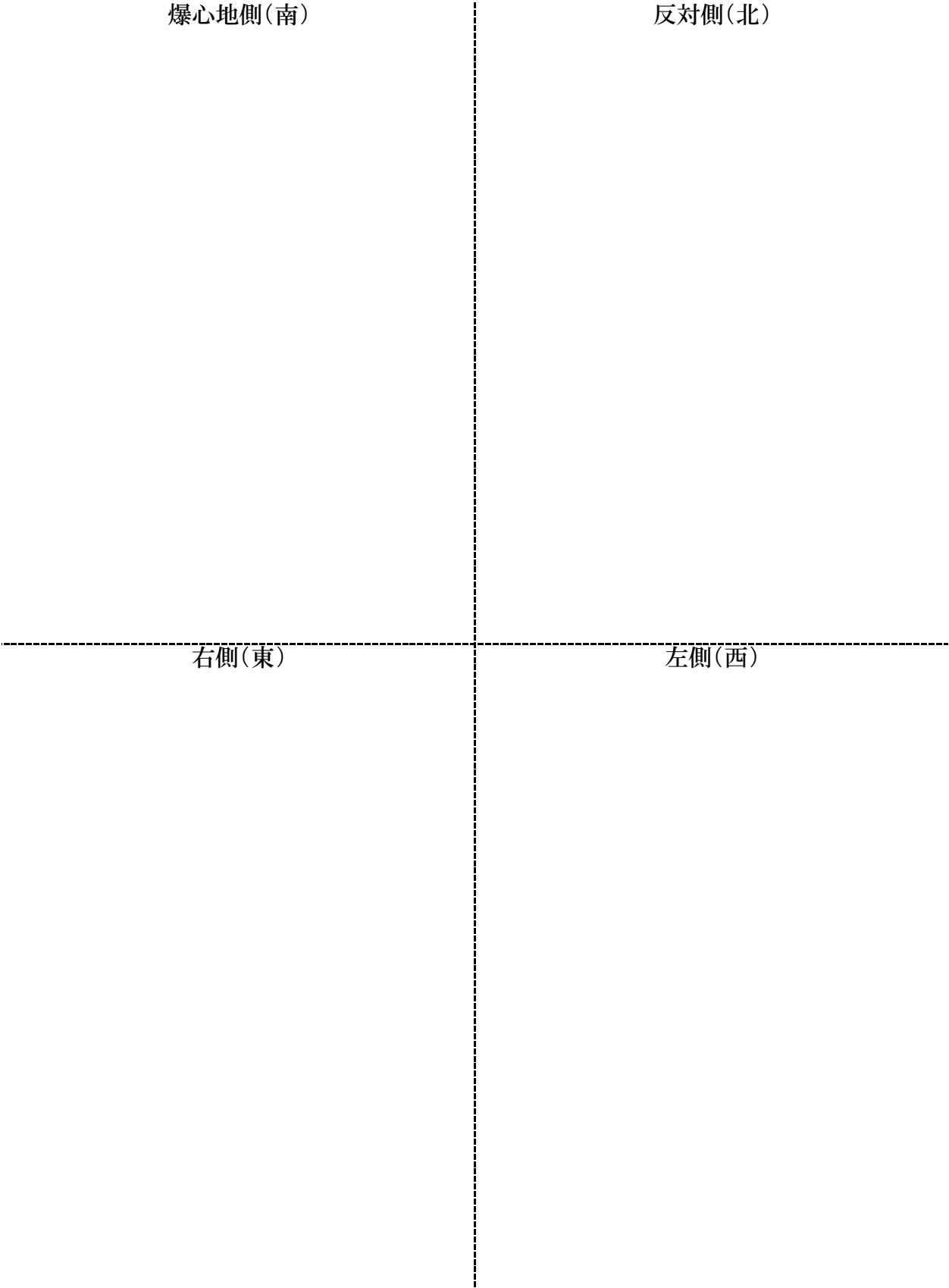
衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
	0.8未満	0.8～1.6未満	1.6～2.4未満	2.4～3.2未満	3.2以上
	良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前

7. 総合診断

周 辺 環 境 の 影 響	
根 系 ・ 根 元 土 壌 の 状 況	
大 枝 ・ 幹 の 状 況	
樹 冠 ・ 枝 葉 の 状 況	
衰 退 度 区 分	I.良 II.やや不良 III.不良 IV.著しく不良 V.枯死寸前
倒木・枝折れ等 危 険 度 判 定	0.安全 1.可能性あり 2.可能性が高い 3.明らかに危険
各 種 被 害 調 査	
考 察	
総 合 判 定	

8. 樹形写真



9 位置図

10. (診断カルテ)処方箋

周 辺 環 境 の 備 整	
土 壌 改 良 と 発 根 促 進	
剪 定	
支柱の設置	
柵 の 設 置	
定期樹勢診断の 調 査 頻 度	1. 毎年樹勢診断 2. 2年毎に樹勢診断 3. 3年毎に樹勢診断 4. 5年毎に樹勢診断 5年で全ての被爆樹木を行う。
特 記 事 項	
保 全 計 画 (5 年 間)	{緊急項目} {中・長期的項目} {その他必要な項目}